

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第31号 平成26年11月15日

久々超超貧打が勝利を遠ざける！

往々にして失策は得点に繋がるもの・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
K	2	0	0	1	0	0		3
G	2	0	0	0	1	0		3



11/15(土)久々のダブルを本日行った。その第1試合は達脇がマウンドに上がり、プレイボール。いつものように、彼の立ち上がりは気になるところなので、その動向が気になったが、先頭をストライク先行で追い込み、4球目をセンターに打たせた。誰もが、一死と思った瞬間、その打球はグラブから落ち且つ、走者の進塁意識が高く、一挙二塁を陥れられた。続く二打者には連続四球で、無死満塁とすると、4番には、レフトオーバーの2ベースを放たれ、無死の状態でも2点を許した。しかし、その後は、後続三人を斬り、失点はこのシーンで止まった。その裏の攻撃、先頭の哲也が死球で出塁、その後二番智の犠打で一死二塁とする。三番の内野ゴロの間に走者は進塁、4番の時にWPで1点を返した。その4番昌平は、左飛失で出塁すると、すぐさま二盗を決める。この牽制球がソレ目つ、このボールをセンターが後逸、この間に一挙生還し、労せずして2点を返し同点、その後も後続二人が四球・死球を選択するも、その後が続き2点止まりとなった。その後、相手に安打を許すも、要所を締め失点を許さない達脇、しかし、4回にまた場面が動いた。この回の先頭・次打者に連続安打を許し無死一・二塁としたが、後続を三ゴロのDPに取り、この回も乗り切ったと思ったが、次打者にセカンドとライトの間にふらふらと上がった打球に、後一步野手が追いつけず、セカンドより、走者が帰り1点リードを許す展開となった。しかし、5回の攻撃、この回先頭の光希が綺麗に振り抜き、打球はセンターの後方に、そして、4番の時に三盗に成功。次打者は凡打、更には死球で一死一・三塁の場面で、相手投手が三塁に偽投をし、これがボークとなり、またもや労せず、同点とした。その後、マウンドは光希に変わり、その光希は三人で抑えたが、我がチームも最終回を三人で抑えられ同点のまま、ゲームは久々の引き分けで終えた。

振り返ってみると、やはり打線であろう。更には、ベンチを含めた場面への対応ではないか？と感じる。そのシーンは、2回の攻撃、この回先頭が四球を選択し出塁、場面は同点なので、進塁させ得点を挙げる選択がセオリー、しかし、残念ながら、打者の打球はポップで走者は進塁出来ず。続く打者も三振に倒れ、二死一塁、しかし、後続は死球で出塁したが、次打者が倒れ、無死の走者を活かす事が出来なかった。チャンスというチャンスが無かっただけに、この回の攻撃内容は非常に悔やまれる。軟式野球の場合は、如何に一死までに三塁へ進塁させるか？と最近感じる、この場面では、様々な選択が出来る事と、打者に依存する事が不要だからである。二死二塁だと、打者に期待をしなければ得点は難しい。その場面に持ち込む可能性が有っただけに、結果として、残念な内容になったのは言うまでもない。ベンチがサインを出さないから、ではなく、その場面で打者は何をすべきをもう少し考えなくては、いけない、と感じた。そんな中、内外連携でホームを刺した光希の返球は、相手チームからも賞賛が上がったのは、言うまでも無い。